

水槽内で観察されたシンカイヒバリガイ類の移動

○北嶋円・根元卓・北田貢（新江ノ島水族館），吉田尊雄（海洋研究開発機構）

シンカイヒバリガイ類は、イガイ科 Mytilidae の湧水域や熱水域でみられる化学合成生物である。イガイの仲間は、足糸と呼ばれる糸状のものを腹縁より分泌して、岩盤などの基盤に付着し、またこれを利用して移動することが知られている。水槽内で飼育中のシンカイヒバリガイ *Bathymodiolus japonicus* とヘイトウシンカイヒバリガイ *Bathymodiolus platifrons* が足や足糸を利用して活発に移動する様子が観察された。観察された移動のようすについて報告する。

新江ノ島水族館では、化学合成生物群集をできるだけ現場に近い環境で飼育すべく、造られた水槽がある。（化学合成生態系水槽。水槽容積約 2.5 m³）この水槽の右側には、熱水噴出域を再現した温水と硫化物が吐出する人工チムニーを設置し、水槽左側には、湧水域を再現しドックフードを埋めた泥を配置している。この水槽の左側に 2010 年 5 月、相模湾初島沖にてサンプリングされたシンカイヒバリガイとヘイトウシンカイヒバリガイを搬入し飼育を行った。

どちらの種も最初に配置した場所より動かない個体が多かったが、殻長 70mm 以下の小さな個体は水槽右側へや、アクリルガラスを伝って移動する様子が観察された。